
[成果情報名] 皮ごと食べられ省力栽培できる無核赤系ブドウ「秋鈴」

[要約] 「秋鈴」(しゅうれい) は、「巨峰」より遅い9月上中旬に成熟し、紫赤色の皮ごと食べられる良食味の無核ブドウである。短梢せん定でも花穂着生が良好で、花穂整形や摘粒などの栽培面の省力化が図れる。

[キーワード] ブドウ、新品種、秋鈴、無核、省力化

[担当部署] 果樹部 果樹育種チーム

[連絡先] 092-922-4946

[対象作目] 果樹

[専門項目] 育種

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

現在の施設栽培用ブドウは「巨峰」に類似した特性を有する品種が主体となっているが、消費者ニーズは多様化しており、皮ごと食べられるなど特徴のある品種への需要が高まっている。また、近年増加している無核果栽培では、満開時および満開後の2回にわたるジベレリン処理が必要で摘粒労力も多いなど、生産面の課題も大きい。このような背景のもと、施設栽培用ブドウの消費拡大を図るため、外観・食味とも「巨峰」とは異なる特性を有し、無核性で栽培労力の軽減が図れるブドウ新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

「秋鈴」は、平成6年に無核の「ルビーシードレス」に大粒の「ハリセフ」を交雑して得られた実生から胚培養によって育成した二倍体品種である。平成16年から20年まで系統番号「福岡13号」としてブドウ第11回系統適応性検定試験に供試して優秀性が認められ、22年2月に福岡県職務育成品種として品種登録出願し、同年4月に出願公表された。

1. 樹勢は強く、発芽期は4月上旬、開花期は5月下旬、収穫期は「巨峰」より遅い9月上中旬である。花穂着生は良好で、短梢1芽せん定栽培が可能である。香り・渋味はなく、裂果の発生は少である。(表1、表2、一部データ略)。
2. 収量は「巨峰」より多く、果皮は紫赤色で皮ごと食べられ、果粒重は自然状態で約6gである。糖度は18度、酸含量は0.4%程度で良食味である(表2、図1)。
3. 栽培労力の評価では、「巨峰」と比べて花穂整形および摘粒労力が少なく省力化が図れる(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 施設栽培で「巨峰」の後に出荷できる品種として普及を図る。
2. 幼木時(樹齢5年以下)は果粒肥大が劣るので、樹冠拡大を行い樹勢を落ち着かせる。
3. トンネル栽培では裂果が発生しやすくなるので、果粒軟化期からの定期的な灌水やマルチ敷設によって土壌湿度の急激な変動を防ぐ。
4. ジベレリン処理で果粒を大粒化すると着色が不揃いになりやすい。

[具体的データ]

表1 「秋鈴」の育成地（福岡県筑紫野市）における特性（平成18～20年）

調査年	樹齡 (年)	発芽期 (月日)	開花期 (月日)	収穫期 (月日)	新梢1本当りの 花穂着生数	裂果性	はく皮性
平成18年	11	4/ 9	5/30	9/26	1.0	極少	難
平成19年	12	3/31	5/30	9/18	1.2	少	難
平成20年	13	4/ 6	5/19	9/ 8	1.8	少	難

注) 短梢1芽せん定栽培。

表2 「秋鈴」と「巨峰」の特性比較（平成19～20年）

品種名	収穫期 (月日)	収量 (kg/m ²)	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (Brix)	酸含量 (%)
秋 鈴	9/17	1.8	565	5.8	18.4	0.45
巨 峰	9/ 8	1.2	279	11.3	16.3	0.53

注) 「巨峰」は満開時にGA25ppm+フルメット10ppm1回処理。

表3 栽培労力の評価（平成18～20年）

品種名	花穂整形	摘粒
秋 鈴	中	極少～少
巨 峰	中～多	少～中

注) 1. 花穂整形労力（極少：デラウェア、少：キャンベルアーリー、多：ネオマスカット）

2. 摘粒労力（中：マスカットベリーA、多：ネオマスカット）



図1 「秋鈴」の果房と着果状況

[その他]

研究課題名：温暖多雨地帯における施設ブドウ育種

予算区分：国庫受託（指定試験）

研究期間：平成20年度（平成6年～20年）

研究担当者：白石美樹夫、平川信之、能塚一徳、鈴木勝征、井樋昭宏、粟村光男、浦 広幸、藤島宏之、千々和浩幸、松本和紀